

平成 26 年度事業報告

本報告は、定款第 39 条に基づき監事の監査を受け平成 27 年 4 月 25 日の平成 27 年度第 1 回理事会にて承認を得ております。

公益社団法人日本栄養・食糧学会 (平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日) 事業報告

<概要>

平成 23 年 9 月 1 日の公益社団法人化から、約 2 年半が経過し、4 月 1 日より平成 26 年度の各事業をスタートさせた。5 月 30 日に社員総会を開催し、平成 25 年度決算書の件を決議するとともに、平成 26 年度事業計画の件、同年度収支予算計画の件等の報告を承認した。平成 25 年度事業報告書は 6 月 20 日内閣府に送付し、指摘・修正を経て提出を完了させた。

栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公 1 事業）として、以下を行った。北海道支部の担当による第 68 回年次大会（北海道札幌市、江別市：主会場・札幌市教育文化会館、酪農学園大学、会頭・原博北海道大学大学院教授）は、1845 人の参加を得て、特別講演、国際シンポジウム、市民公開講座を含め、予定通り開催された。また、第 69 回年次大会については関東支部担当（会頭・鈴木和春東京農業大学教授）で第 12 回アジア栄養学会議（12th ACN・組織委員長・宮澤陽夫東北大学大学院教授）と合同開催（横浜市：主会場・パシフィコ横浜）することになり、その準備として、関係機関と協働して、会場、運営、プログラム、募金等の活動を精力的に進めた。支部事業については、全支部において、相応しいテーマのもとに支部大会およびシンポジウム等を開催した。国際的活動については、12th ACN 及び平成 33 年に東京での開催が決まった第 22 回国際栄養学会議（22nd ICN）の準備を進める中で、学会としての国際性を高め、各国の関連学会との連携の強化を図った。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公 2 事業）においては、引き続き日本栄養・食糧学会誌を効率的な編集方針のもとに定期的に刊行（第 67 巻 2 号～6 号、第 68 巻 1 号）し、欧文誌 JNSV 刊行においても定期的に出版（Vol. 60-No. 2～No. 6、Vol. 61-No. 1）した。

理事会を中心に、公益法人としてのガバナンスの向上、会員サービスの向上に努め、利益相反（COI）については、前年度策定した利益相反委員会が利益相反指針並びにその細則の改訂素案について検討を加え、実施の準備をした。また、年次大会参加者の利便性向上の観点から、講演要旨集の Web 公開を実施しているが、使用言語が英語となる 12th ACN にも適応できるようにした。

I 会員の動き

1) 会員の状況（平成 27 年 3 月 31 日現在）

名誉会員	37 名
終身会員	132 名
正会員	3102 名
学生会員	704 名
団体会員	77 件
賛助会員	66 件（78 口）
学会誌定期購読団体	119 件

2) 平成 26 年度（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）物故会員（敬称略）

名誉会員	藤巻 正生 糸川 嘉則 金森 正雄
終身会員	伊吹 文男、沖中 靖、大関 静枝
正会員	宇都宮 信子、三國 克彦

3) 支部別会員数 平成 27 年 3 月 31 日付

会員種別 支部名	名誉会員	終身会員	正会員	学生会員	団体会員	賛助会員 [口数]
北海道支部	0 (± 0)	4 (± 0)	113 (+ 5)	40 (+13)	6 (－ 5)	1[1] (± 0)
東北支部	1 (± 0)	6 (± 0)	177 (+ 1)	65 (+15)	2 (－ 9)	0[0] (± 0)
関東支部	20 (－ 1)	51 (± 0)	1194 (－31)	222 (+21)	39 (－ 45)	54[66] (+ 3)
中部支部	3 (－ 1)	13 (+ 1)	366 (－ 8)	63 (－11)	8 (－ 17)	3[3] (± 0)
近畿支部	5 (－ 1)	39 (± 0)	656 (－18)	194 (+37)	9 (－ 22)	6[6] (± 0)
中国・四国支部	2 (± 0)	10 (+ 2)	299 (－ 6)	62 (－ 2)	10 (－ 15)	2[2] (± 0)
九州・沖縄支部	5 (± 0)	9 (－ 1)	293 (－23)	56 (+ 9)	3 (－ 10)	0[0] (± 0)
海外	1 (± 0)	0 (± 0)	4 (± 0)	2 (+ 2)	0 (± 0)	0[0] (± 0)
合計	37 (－ 3)	132 (+ 2)	3102 (－80)	704 (+ 84)	77 *(-123)	66[78] (+ 3)

() 内は平成 26 年 3 月 31 日会員に対する増減を示す。(平成 27 年 3 月 31 日現在)

*平成 26 年度第 4 回理事会決議により、従来の団体会員のうち、学会誌購読の目的で入会している 119 団体を団体会員からはずし、学会誌定期購読団体として扱うこととなった。

II 各種事業活動の推進報告

<栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公1）>

1) 大会事業

(1) 第68回日本栄養・食糧学会大会の開催（会頭 原 博 北海道大学大学院教授）

平成26年5月30日（金）～6月1日（日）北海道札幌市札幌市教育文化会館、江別市酪農学園大学、札幌市北海道大学学術文化交流会会館

*特別講演

「ヒト脂肪エネルギー代謝調節における褐色脂肪の役割と
食品中の活性化因子」

斉藤 昌之（北海道大学）

「栄養因子としてのコレステロールと動脈硬化の発症」

横山 信治（中部大学）

*教育講演

「食べ物のおいしさと『こく』」

西村 敏英（日本獣医生命科学大学）

「新しい脂質評価系と食品開発」

千葉 仁志（北海道大学大学院）

「消化管内分泌細胞の研究の歴史とこれから」

岩永 敏彦（北海道大学大学院）

「微量栄養素と健康」

駒井 三千夫（東北大学大学院）

「短鎖脂肪酸の生理作用の特徴」

坂田 隆（石巻専修大学）

「腸内細菌叢のメタゲノミクス」

服部 正一（東京大学大学院）

*国際シンポジウム「Global challenges and opportunities for nutritional well-being」

「Improving nutrition through food system transformation」

Anna Lartey (International Union of
Nutritional Sciences, Nutrition Division
Food and Agriculture Organization of the
United Nations)

「Etiology based definition for adult malnutrition: Role of inflammation-A systematic approach to nutrition
assessment」

Gordon L Jensen (Department of Nutritional
Sciences, Penn State University)

「Current topics and future prospects in food and nutrition research」

Teruo Miyazawa (Food Innovation Project,
GSAS/NICHe, Tohoku University)

「Necessity to develop food products to combat under nutrition and non communicable diseases」

Usha Pusukala Kumari Hettiaratchi
(Department of Biochemistry, Faculty of
Medical Sciences, University of Sri
Jayewardenepura)

「Proposal of the comprehensive educational approach for promotion of healthy diet: IUNS workshop 2014 report」

Fumi Hayashi (Department of Nutrition,
Faculty of Healthcare Sciences Chiba
Prefectural University of Health Sciences)

「Improvement of social environment for healthy diet: Opportunities and challenges」

Kitti Sranacharoenpong (Institute Nutrition,
Mahidol University)

*シンポジウム 12 テーマ

*サテライトシンポジウム 1 テーマ

*市民公開講座 1 テーマ

一般講演 662 題

参加者数 1845 名（内 非会員 390 名）

(2) 支部事業

①北海道支部

*第44回日本栄養・食糧学会北海道支部大会

平成26年11月21日（土）北海道大学大学院農学研究院総合研究棟 W109 室

シンポジウム「畜産物の嗜好性や品質、機能向上に向けたチャレンジ」

「食肉の美味しさを筋細胞遺伝子発現から制御する試み」

水野谷 航（九州大学大学院）

「食肉脂肪との高品質・高付加価値化」

川原 聡（宮崎大学）

「機能性素材を用いた畜産物の生産性向上と品質改善」

本田 和久（神戸大学大学院）

「体を温める食肉、冷やす食肉」

若松 純一（北海道大学）

参加者数 52 名（内 非会員 21 名）

一般講演 12 題

②東北支部

*第48回日本栄養・食糧学会東北支部大会

平成26年11月1日(土) 東北大学農学部

公開シンポジウム「脂肪と健康」

「脂質異常症などの疾病における酸化ストレス発生機序を探る」

「n-3系栄養多価不飽和脂肪酸摂取と健康」

「褐色脂肪組織の機能と油脂」

参加者数 100名(内 非会員 45名)

一般講演 13題

仲川 清隆 (東北大学大学院)

川端 輝江 (女子栄養大学)

河田 照雄 (京都大学大学院)

③関東支部

*第94回日本栄養・食糧学会関東支部大会

平成26年11月22日(土) 東京農業大学 世田谷キャンパス

シンポジウム「食と健康をつなげるメタボリックシグナル」

「がんのストレス代謝応答と治療抵抗性解除機構の解明」

「コレステロール代謝産物のセンシングによるメタボリック制御機構」

「視床下部のメタボリックセンサーによる肝臓糖代謝制御」

参加者数 144名(内 非会員 85名)

一般講演 3題

末松 誠 (慶応義塾大学)

佐藤隆一郎 (東京大学大学院)

井上 啓 (金沢大学)

*第17回脂質栄養シンポジウム

平成27年2月21日(土) 星陵会館

シンポジウム「内臓脂肪をためない生活習慣」

「内臓脂肪に着目した保健指導の展開と可能性(尼崎市の取組みから)」

「内臓脂肪と異所性脂肪”脂肪筋”から考える運動の役割」

「日本食の遺伝子解析で見た栄養特性」

「米の新たな健康機能性」

参加者数 157名(内 非会員 120名)

一般講演 4題

野口 緑 (尼崎市市民協働局)

田村 好史 (順天堂大学大学院)

宮澤 陽夫 (東北大学大学院)

門脇 基二 (新潟大学)

*第95回日本栄養・食糧学会関東支部大会

平成27年3月14日(土) お茶の水女子大学 本館306

シンポジウム「脂溶性ビタミン研究のフロンティア」

「北極圏動物におけるビタミンAの蓄積と放射能汚染」

「ビタミンE輸送蛋白質と先天性ビタミンE欠乏症」

「ビタミンDの新たな分子標的と作用メカニズム」

「血液凝固や骨形成以外にも重要なビタミンKの機能」

参加者数 64名(内 非会員 36名)

一般講演 4題

妹尾 春樹 (秋田大学大学院)

新井 洋由 (東京大学大学院)

岡野登志夫 (神戸薬科大学)

駒井三千夫 (東北大学大学院)

④中部支部

*第66回日本栄養・食糧学会中部支部大会

平成26年7月12日(土) 静岡県立大学 看護学部棟 4階

公開シンポジウム「日本人の食事を考える!!」

「おいしく食べて健康づくり—出汁の有用性を考える—」

「日本人の食の特徴とエネルギー代謝」

「日本人における食事履歴エピゲノムマーカー研究の現状」

参加者数 64名(内 非会員 34名)

鳥居 邦夫 (鳥居食糧情報調節研究所)

渡辺 達夫 (静岡県立大学)

望月 和樹 (山梨大学)

*第67回日本栄養・食糧学会中部支部大会

平成26年11月22日(土) 静岡県立大学 看護学部棟 4階

特別講演「小さく生んで大きく育てるのは良い事か?—成人病(生活習慣病)胎児期発症起源説から考える—」

参加者数 74名(内 非会員 38名)

一般演題 12題

福岡 秀興 (早稲田大学)

⑤近畿支部

*第53回日本栄養・食糧学会近畿支部大会

平成26年10月25日(土) 京都府立大学 稲盛記念会館

シンポジウム「和食の科学と文化」

「減塩和食のすすめ」

「和食における魚の活用」

参加者数 165名(内 非会員 12名)

一般講演 58題

中村 保幸 (京都女子大学)

鷲尾 圭司 (滋賀県立大学)

*第5回栄養学を志す若手のためのフォーラム

平成26年12月6日(土) 京都女子大学

日本栄養改善学会近畿支部と共催

テーマ「Double Burden of Malnutritionと体重管理について考える」

「DBM と体重管理について」
「小児期の『肥満』と『やせ』：先進国の抱える Double Burden」
「わが国の肥満症の概念とメタボリックシンドローム対策について」
「肥満症者への減量指導症例報告」

柳 元和 (帝塚山大学)
久保田 優 (奈良女子大学)
船橋 徹 (大阪大学)
水野菜穂子 (京都大学)

参加者数 133 名 (内 非会員 119 名)

⑥中国・四国支部

*第 47 回日本栄養・食糧学会中国・四国大会

平成 26 年 11 月 15 日 (土) ~16 日 (日) 四国大学交流プラザ

市民公開講座

「希少糖 D-プシコースの機能性と食品への応用」
「スダチ果皮ポリフェノール (スダチチン) の抗糖尿病作用」

松尾 達博 (香川大学)
新井 佳孝 (徳島県立工業技術センター)

特別講演

「咀嚼嚥下機能が低下した高齢者のスクリーニングと対応—誤嚥性肺炎の予防のために—」

栢下 淳 (県立広島大学)
濱田 康弘 (徳島大学大学院)

「疾患治療に対する栄養療法の重要性」

参加者数 104 名 (内 非会員 2 名)

一般講演 20 題

⑦九州・沖縄支部

*第 68 回日本栄養・食糧学会九州・沖縄大会

平成 26 年 10 月 11 日 (土) ~12 日 (日) 熊本県立大学

公開市民フォーラム「食べ物と健康を考える」

「ビタミン B₆ およびホモシステインに関する研究」
「廃用性筋萎縮予防に関する分子栄養学的研究」
「時間栄養学」

叶内 宏明 (鹿児島大学)
平坂 勝也 (長崎大学大学院)
香川 靖男 (女子栄養大学)

参加者数 120 名

一般講演 49 題

2) 大会事業準備

(1) 第 69 回日本栄養・食糧学会大会の開催 (会頭 鈴木 和春 東京農業大学教授)

平成 27 年 5 月 14 日 (木) ~5 月 18 日 (月) 神奈川横浜市

*基調講演 5 題
*教育講演 13 題
*シンポジウム 48 テーマ
*市民公開講座 1 テーマ
一般講演 1483 題

(2) 第 70 回日本栄養・食糧学会大会開催準備

平成 28 年 5 月 13 日 (金) ~5 月 15 日 (日) 兵庫県神戸市、西宮市

近畿支部 (準備責任者 中野 長久 大阪府立大学大学院名誉教授) が開催担当支部として準備を進めてきた。

(3) 第 71 回日本栄養・食糧学会大会開催準備

平成 29 年度の本大会の開催担当支部及び開催地が九州・沖縄支部で沖縄県宜野湾市において実施予定となった。(第 6 回理事会 3/21 決議)。

大会準備責任者として、山田耕路 崇城大学大学院教授が選任された (第 6 回理事会 3/21 決議)。

3) 表彰事業および助成・助成推薦事業

本事業は、各種授賞等選考委員会並びに学会活動強化委員会を通じ展開された。

(1) 第 1 回各種授賞等選考委員会 (5/30) が開催され、事業方針・スケジュールを確認した。

(2) 第 2 回各種授賞等選考委員会 (12/13) が開催され、功労賞 1 件、学会賞 2 件、奨励賞 2 件、技術賞 2 件、栄養・食糧学基金 研究助成対象者 1 件、栄養・食糧学基金 国際交流助成対象者 1 件を推薦し理事会に上申した。他に委員会活動として、外部団体への学会長名での推薦 1 件を 12 月 13 日の各種授賞等選考委員会にて審査を行った。

(3) 学会活動強化委員会活動としては、

- ①学術企画の支援として学会活動強化費申請 (5 件) のメール審査を行い、修正後、再提出を求めたうえで全て承認した。
- ②栄養・食糧学基金助成の審査を行い、各種授賞等選考委員会へ報告を行った。
- ③学会活動強化委員会を開催し (12/13)、会員増・若手活動強化費の運用について検討

(4) 平成 26 年度表彰授与式開催

①平成 26 年度受賞者

功労賞 (佐伯賞)	今泉 勝己	柳田 晃良	
学会賞	駒井 三千夫	近藤 和雄	寺尾 純二

奨励賞	叶内 宏明	小林 美里	平坂 勝也
②平成 26 年度栄養・食糧学基金研究助成者			
栄養・食糧学学術基金研究助成	池田 彩子	永井 竜児	

(5) 平成 27 年度対象の各賞候補者の公募、栄養食糧学学術基金の助成対象者募集記事を学会誌 4 号に掲載した。学術基金 国際交流助成後期の募集を HP 及びメールニュースに掲載した。

(6) 表彰事業の協賛のため 6 企業・団体へ依頼し応諾された。

(7) 下記外部団体からの研究褒賞候補者推薦依頼・研究助成募集の周知を図った。

①研究褒賞候補者推薦依頼

天野エンザイム(株)/酵素応用シンポジウム研究奨励賞	(公財)安藤スポーツ・食文化振興財団/安藤百福賞
(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団/飯島藤十郎食品科学賞&飯島藤十郎食品技術賞	
(公財)上原記念生命科学財団/上原賞	(公財)木原記念横浜生命科学財団/学術賞
慶應義塾医学振興基金/慶應医学賞	(公財)材料科学技術振興財団/山崎貞一賞
(公財)杉浦地域医療振興財団/杉浦地域医療振興賞	第一生命保険株式会社/保健文化賞
辻静雄料理研究所/辻静雄食文化賞	(財)東京顕微鏡院/遠山椿吉記念、健康予防医療賞
(公財)内藤記念科学振興財団/内藤記念科学振興賞	(社)日本医師会/日本医師会医学賞・医学研究奨励賞
日本学術会議/Harvey 賞	日本看護協会/ヘルシー・ソサイエティ
(公財)全日本病院協会/明日の象徴	(独)日本学術振興会/日本学術振興会賞・育志賞
ネスレ栄養科学会議	福井県小浜市/杉田玄白賞
(公財)三島海雲記念財団/三島海雲学術賞	(公財)森永奉仕会/森永奉仕会賞

②研究助成募集の周知

(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団	(公財)浦上食品・食文化振興財団
うま味研究会	(公財)エリザベス・アーノルド富士財団
(独) 科学技術振興機構	(財)旗影会
(財) キヤノン財団	公益信託家政学研究助成基金
(公財)サッポロ生物科学振興財団	(財)住友生命健康財団
(財)サンスター財団	笹川スポーツ財団
(社)Jミルク	(財)杉浦地域医療振興財団
(公財)ソルト・サイエンス研究財団	(公財)タカノ農芸化学研究助成財団
(公財)ダノン健康・栄養財団	(社)中央味噌研究所
(公財)東洋食品研究所	(公財)内藤記念科学振興財団
(社)日本医師会	(公財)日中医学協会
(公財)日本科学協会	(公財)日本食品化学振興財団
(公財)日本心臓財団	ネスレ栄養科学会議
農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課	(財) バイオインダストリー協会
ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株)	(財)ファイザーヘルスリサーチ振興財団
(公財)不二たん白質研究振興財団	(公財)ホクト生物科学振興財団
(公財)本庄国際奨学財団	(公財)三島海雲記念財団
(公財)森永奉仕会	やずや食と健康研究所
(公財)山崎香辛料振興財団	(公財)山田科学振興財団
(株)山田養蜂場	(公財) ロッテ財団

(8) 外部団体への推薦

- ①公益財団法人三島海雲記念財団 (三島海雲学術賞)
各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1 件を学会として推薦
- ②公益財団法人 森永奉仕会
 - i) 平成 25 年度森永奉仕会研究奨励金受賞 (平成 25 年 7 月 3 日受理)
 - ii) 平成 26 年度森永奉仕会 奉仕会賞
各種授賞等選考委員会にて審査の結果、1 件を学会として推薦
- ③公益財団法人山田科学振興財団 (研究援助推薦)
各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、2 件を学会として推薦

(9) 研究活動の奨励

- 第 68 回大会時に下記関連学術集会を支援
- ①第 47 回油脂・コレステロール研究会の開催
 - ②スポーツ栄養学研究会の開催
 - ③栄養学若手研究者の集いの開催
 - ④ヒトエネルギー代謝研究若手の会開催
 - ⑤コラーゲンペプチド機能研究会

4) 栄養・食糧科学に関する研究・調査事業

本事業は、下記2テーマとも非常置委員会としてそれぞれの委員会で展開された。
以下各テーマについて主な進捗を報告する。

(1) 栄養成分表示・栄養教育の検討

68回大会において、シンポジウム「新しい栄養表示・健康表示の課題と展望」の開催。日本人の食事摂取基準(2015年版)の簡潔な概説を学会誌に掲載する方向で合意した。

(2) 栄養・食糧学用語に関する検討

ワーキンググループによる栄養・食糧学用語辞典(第二版)の編集作業を終了した。

5) 国際交流事業

本事業は、国際交流委員会及び12th ACN組織委員会を通じ展開された。

(1) 第12回アジア栄養学会議(12th ACN2015)

組織委員会を中心に各小委員会の活動を進め、プログラム、会場、後援・協賛団体への働きかけ等の開催前年度の準備作を実施した。

(株)ICSコンベンションデザインとの契約に基づき平成26年度分の業務を委託した。

演題登録、参加登録等を公表スケジュール通りに開始したが、演題登録締切を約1ヶ月延期した。

(2) International Union of Nutritional Sciences (IUNS) 関係

IUNS会長を第68回大会シンポジウムに招聘した。

IUNS理事会との連携を密にした。

日本学術会議 IUNS分科会と連携し、第22回国際栄養学会議(22nd ICN2021 東京)の準備体制、計画を策定するとともに、第21回会議(21st ICN2017 アルゼンチン)で求められる状況報告も含め、準備を開始した。

(3) International Union of Food Science and Technology (IUFoST) 関係

IUFoST Japanと連携しその事業を支援した。

(4) 海外関連学会との連携

米国栄養学会(ASN)とのMOUを締結し、第68回大会シンポジウムに同学会会長を招聘した。

国際学術団体との連携を図った。

(5) その他

FANS ニュースレターを提出した。

6) 倫理審査事業

本事業は、倫理審査委員会を通じ展開されている。

(1) 倫理審査申請依頼(申請番号79番)に基づきメール審議で倫理審査委員会を開催(7/29)、審査結果に基づき承認

< 栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公2） >

1) 出版事業の推進

本事業に関しては、日本栄養・食糧学会誌編集委員会が担当するとともに、JNSV 刊行においては、日本ビタミン学会との共同編集として発刊した。これらの学術誌の発刊は、(財)学会誌刊行センターに委託している。

(1) 日本栄養・食糧学会誌 67 巻 2 号～6 号、68 巻 1 号

① 投稿状況

2015 年 4 月 1 日現在 投稿数（うち採択数）

受付日	全投稿数	総説	報文	研究ノート	資料	速報
2013 年 4 月	0	0	0	0	0	0
2013 年 5 月	6(3)	1(1)	2(1)	3(1)	0	0
2013 年 6 月	5(2)	1(1)	1(0)	3(1) 注1	0	0
2013 年 7 月	2(2)	0	2(2)	0	0	0
2013 年 8 月	7(7)	3(3)	3(3)	0	1(1) 注2	0
2013 年 9 月	2(2)	0	1(1)	1(1)	0	0
2013 年 10 月	2(2)	1(1)	1(1)	0	0	0
2013 年 11 月	1(1)	0	1(1)	0	0	0
2013 年 12 月	0	0	0	0	0	0
2014 年 1 月	1(1)	0	1(1)	0	0	0
2014 年 2 月	2(1)	1(1)	1(0)	0	0	0
2014 年 3 月	4(3)	0	1(1)	2(1) 注3	1(1)	0
2014 年 4 月	4(1)	0	4(1)	0	0	0
2014 年 5 月	1(0)	0	1(0)	0	0	0
2014 年 6 月	4(2)	1(1)	1(0) 注4	1(1) 注3	1(0)	0
2014 年 7 月	5(3)	2(2)	2(0)	1(1) 注4	0	0
2014 年 8 月	5(4)	1(1)	1(1)	1(1)	0	2(1) 注5
2014 年 9 月	3(1)	0	1(0)	0	2(1) 注6	0
2014 年 10 月	4(3)	0	3(2) 注7	1(1)	0	0
2014 年 11 月	2	0	1	1(0) 注8-1	0	0
2014 年 12 月	1	0	1	0	0	0
2015 年 1 月	4	0	4	0	0	0
2015 年 2 月	1	0	1 注7	0	0	0
2015 年 3 月	3	0	1	1(0) 注8-2	1	0

注 1. 3 報のうち 1 報は報文からの種別変更 注 2. 研究ノートからの種別変更

注 3. 1 報は一旦取り下げの後、再び研究ノートとして 6 月に再投稿

注 4. 掲載否の後、改めて研究ノートとして 7 月に再投稿

注 5. 1 報は一旦取り下げ 注 6. 1 報は報文からの種別変更

注 7. 1 報は掲載否の後、再び報文として 3 月に再投稿

注 8-1. 報文からの種別変更

注 8-2. 注 8-1. が掲載否の後、再び研究ノートとして 3 月に再投稿

*2013 年度 投稿論文 32 編
採択率 80%（取り下げ除く）
掲載可 24 編（平均所要日数 73 日） 掲載否 6 編（平均所要日数 92 日）
取り下げ 2 編 審査中 0 編

*2014 年度 投稿論文 37 編
採択率 50%（取り下げ及び審査中除く）
掲載可 15 編（平均所要日数 86 日） 掲載否 15 編（平均所要日数 47 日）
取り下げ 1 編 審査中 6 編

② 発行状況

巻号	総説	報文	研究ノート	資料	速報	書評	計
67-2	1	3	0	0	0	0	4
67-3	1	2	0	0	0	0	3
67-4	1	1	1	0	0	0	3
67-5	0	3	0	0	0	0	3
67-6	2	0	1	1	0	0	4
68-1	2	0	2	0	0	0	4
総計	7	9	4	1	0	0	21

③刊行状況

巻号	納本日	予定日
67-2	4月10日	4月10日
67-3	6月10日	6月10日
67-4	8月11日	8月11日
67-5	10月10日	10月10日
67-6	12月10日	12月10日
68-1	2月10日	2月10日

④編集委員会は5月31日と10月25日の2回開催した。
学会誌投稿規定を改定

(2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV)

①編集状況

日本ビタミン学会との共同編集 Vol. 60-No. 2~No. 6、Vol. 61-No. 1の刊行

平成27年3月31日現在

理事会 資料提出日	Vol	年	分野別投稿数						分野別採択数						備考
			Total	V	N	F	R	Note	Total	V	N	F	R	Note	
3月21日	60	2014	32	6	18	8	1	7	20	6	12	2	0	3	60-2まで
5月29日			52	10	29	13	1	8	30	6	20	4	0	3	60-3まで
8月2日			86	17	52	17	2	13	51	8	31	12	0	8	60-5まで
10月18日			114	23	69	22	2	21	66	11	42	13	1	11	60-6まで
1月24日			146	29	90	27	3	27	66	11	42	13	1	11	60-6まで
3月21日			173	35	106	32	4	34	95	15	60	20	1	15	61-2まで

Total は、V、N、Fの合計。

(各号の内訳)						
Total	V	N	F	R	Note	巻号
10	3	7	0	0	2	60-1
10	3	5	2	0	1	60-2
10*	0	8	2	0	0	60-3
12	1	6	5	0	2	60-4
9	1	5	3	0	3	60-5
15	3	11	1	1	3	60-6
15	2	10	3	0	2	61-1
14	2	8	4	0	2	61-2

*IUNS報告を除く。

JNSV投稿内訳および結果

Vol.	Year	Total No.*	V		N		F		R	Note		年間掲載数	頁	審査中	可	否 (D,E,取下)
			投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数		投稿数	掲載数					
48	2002	104	23	14	62	58	19	10				82	558			
49	2003	124	21	12	85	51	18	12				75	473			
50	2004	107	18	15	68	48	21	11				75	465			
51	2005	115	26	14	76	49	13	15	1	15	17	78	499			
52	2006	137	19	17	88	43	30	11	1	16	11	71	497			
53	2007	134	22	16	92	51	20	21	2	18	17	88	577			
54	2008	154	20	16	103	57	31	8	3	23	11	81	531			
55	2009	165	23	10	112	56	30	12	1	28	16	78	538			
56	2010	172	29	11	115	44	28	13	1	25	12	68	470			
57	2011	167	28	8	104	49	35	8	2	24	10	65	460			
58	2012	153	33	11	107	43	13	11	1	28	18	65	466			
59	2013	144	27	22	96	51	21	7	4	24	20	80	614	0	76	68
60	2014	146	29	11	90	41	27	13	3	27	11	65	471			

* V、N、Fの合計。

採 択 日 数

	60日以内	90日以内	120日以内	180日以内	180日を 超える	全採択数
2003年 (採択数)	3.4% 3	14.8% 13	37.5% 33	12.5% 11	31.8% 28	88
2004年 (採択数)	4.2% 3	11.3% 8	21.1% 15	14	43.7% 31	71
2005年 (採択数)	5.8% 4	30.4% 21	17.4% 12	11.6% 8	34.8% 24	69
2006年 (採択数)	8.2% 7	32.9% 28	23.5% 20	18.9% 16	16.5% 14	85
2007年 (採択数)	15.4% 12	30.8% 24	28.2% 22	15.3% 12	10.3% 8	78
2008年 (採択数)	19.2% 15	30.8% 24	17.9% 14	28.2% 22	3.8% 3	78
2009年 (採択数)	29.9% 20	26.9% 18	13.4% 9	20.8% 14	9.0% 6	67
2010年 (採択数)	23.3% 17	19.2% 14	17.8% 13	32.9% 24	6.8% 5	73
2011年 (採択数)	17.9% 10	25.0% 14	25.0% 14	28.5% 16	3.6% 2	56
2012年 (採択数)	22.3% 17	23.7% 18	17.1% 13	31.6% 24	5.2% 4	76
2013年 (採択数)	23.6% 17	25.0% 18	27.8% 20	17.0% 16	6.6% 5	76

論 文 採 択 率

	投稿数	可	《採択率》	否	取下げ	他誌へ	審査中
2003年	124	88	71.0%	23	11	2	
2004年	107	71	66.4%	21	13	2	
2005年	115	69	60.0%	28	15	3	
2006年	137	85	62.0%	37	13	2	
2007年	134	78	58.2%	38	10	8	
2008年	154	78	50.6%	65	9	3	
2009年	165	67	40.6%	87	6	5	
2010年	172	73	42.4%	83	8	8	
2011年	167	56	33.5%	98	10	3	
2012年	153	76	49.7%	65	6	6	
2013年	144	76	52.8%	56	5	7	

論文採択率 (国内・海外内訳)

	投稿数		可		採択率		否		取下げ		他誌へ		審査中	
	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外
2011年	106	61	50	6	47.2%	9.8%	49	49	5	5	2	1	0	0
2012年	105	48	62	14	59.0%	29.2%	35	30	5	1	3	3	0	0
2013年	88	56	62	14	70.4%	25.0%	19	37	2	3	5	2	0	0

②投稿数・掲載数ともに順調に推移したが、インパクトファクター(2015年3月現在0.868)が下降している。

J-STAGEを用いたオンライン審査システムが2015年3月31日より稼動した。本システムの円滑な稼動により、採択日数がより短縮され、投稿数やインパクトファクターの向上が期待できる。

③編集委員の交代(2名)

(3) 学会監修出版物

「ミネラル摂取と老化制御」

宮本 賢一、新井 英一、下村 吉治 (編) 建帛社

2) 広報事業

本事業は、広報委員会を通じ展開された。

(1) 報道機関向け広報

①第68回大会開催にあたり、報道機関へプレスリリースを実施した。(平成26年5月9日)

②第69回大会開催にあたり、報道機関へ事前に主なテーマについての発表(平成27年4月17日)実施の準備

(2) 会員向け情報の告知

学会内の動き、関連学術団体、関連機関(大学・官庁等)からの情報、依頼記事(募集・告知等)について、広報推進を行った。

①ホームページ管理業務委託業者を通じ、定期的に及び緊急的に情報を掲載

②会員向けメールマガジン栄食ニュースは1回/月のペースで発信

ホームページへの掲載の紹介及びタイムリーな記事掲載を行い、以下14号発信

2014-4(通算134号 4/10)、2014-5(135号 5/12)、2014-6(136号 6/10)、2014-7(137号 7/10)、2014-演題受付開始しています!(臨時号 8/5) 2014-8(138号 8/11)、2014-9(139号 9/10)、

2014-10(140号 10/10)、2014-[ACN&第69回大会]演題登録締切延長のお知らせ(臨時号 11/5)、2014-11(141号 11/12)、2014-12(142号 12/10)、2015-1(143号、1/13)、2015-2(144号、2/12)、2015-3(145号、3/10)

③国内学術団体からの事業関連の連絡・通知

*日本学術会議

日本学術会議発行メールニュース(No.443~No.487)の周知の実施

*日本医学会

シンポジウム等の開催周知協力の実施

III 管理業務報告

(1) 内閣府からの通知・連絡対応

①内閣府より

*公認認定等委員会だより(その29~その40)受理

*メール通知「事業報告等の提出」提出のお知らせ(6/1)

*メール通知「事業計画書変更届」提出受付のお知らせ(6/6)

*メール依頼「節電対策の取り組みについて」(6/9受理、7月下旬HP掲載)

*メール通知「事業報告等の提出」受付のお知らせ(6/20)

*メール通知「国家公務員の再就職等規制に関する制度周知について」(11/12受理)

*メール依頼「冬季節電に関するご協力のお願ひについて」(11/27受理)

*メール通知「事業計画書等の提出」(3か月前)の案内(1/1受理)

*メール通知「事業計画書等の提出」(1か月前)の案内(3/1受理)

*メール通知「事業計画書等の提出完了」(整理番号1500148223)の案内(3/26)

②内閣府へ

*「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性の有無」をメールにて提出(6/6)

*平成25年度事業報告書等をWeb上で送信(6/23)、報告内容につき内閣府の指摘を受け、修正、提出完了(2/13)

*平成27年度事業計画書等をWeb上で送信(3/26)

(2) 文部科学省

*平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術省及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について

(5/16受理、6月上旬HP掲載、6/10メールニュース配信、7/17回答)

*「第10回科学技術予測調査」に関する協力のお願ひ(8/21受理、8/26HP掲載)

*平成27年度(第55回)科学技術週間について(依頼)(受理)

(3) 厚生労働省

*【医薬品・医療機器安全性情報】No.312~No.321の周知依頼

*「日本人の食事摂取基準(2015年版)策定検討会」報告書周知・公表(4/25)

*医療機器の不具合等報告症例公表及び活用について(8/5受理)

*「日本人の食事摂取基準(2015年版)研修会のお知らせ(9/12受理)

*医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の周知について(11/11受理)

*倫理審査委員会認定申請提出(2/3受理、2/19提出)

(4) 農林水産省

*【Washoku JAPAN 通信】(2014年4月配信号~2015年3月配信号)

*日本食文化の魅力シンポジウム&日本全国子ども郷土料理サミットの案内(10/29受理)

(5) 日本学術会議

- ①日本学術会議発行メールニュース (No. 443～No. 487) の周知
- ②生活科学系コンソーシアムへの参加
- ④Harvey 賞候補者推薦依頼周知

(6) 日本医学会

- ① [ibunka・ml] の周知
- ②日本医学会だよりの掲載
- ③日本医学会に関するアンケートの回答
- ④日本医学雑誌編集者会議 (平成 26 年 11 月 5 日) への出席
- ⑤日本医学会分科会利益相反会議 (平成 26 年 11 月 28 日) への出席
- ⑥日本医学会・医学用語委員会 (平成 26 年 12 月 19 日) への出席
- ⑦日本医学会定例評議員会 (平成 26 年 2 月 18 日) への出席
- ⑧日本医学会臨時総会 (平成 26 年 2 月 18 日) への出席
- ⑨第 29 回日本医学会総会 (2015 年 関西) の周知

(7) 関連団体との共催、協賛、後援の許可

- ・タマゴ科学研究会「第 2 回タマゴシンポジウム」後援
- ・日本食品・機械研究会「第 12 回高付加価値食品開発のためのフォーラム」協賛
- ・公益財団法人不二たん白質研究財団「公開講演会『大豆のはたらき in 仙台ー食を通して健やかな人生をー』」協賛
- ・(社)心の絆プロジェクト「被災地支援活動『心の絆プロジェクト』」後援
- ・公益社団法人 日本油化学会 「第 14 回基準油脂分析試験法セミナー」協賛
- ・ネスレ栄養科学会議 「食と生命のサイエンス・フォーラム～脳の認知機能に及ぼす栄養の役割」後援
- ・(社)米穀安定供給確保支援機構「平成 26 年度「食育健康サミット」後援
- ・日本応用糖質科学会平成 27 年度大会後援依頼
- ・平成 26 年度農林水産省補助事業「6 次産業化促進技術対策事業」に係る成果報告会後援
- ・食品ナノコロイド研究会「第 26 回食品ナノコロイドシンポジウム」協賛
- ・食品ナノコロイド研究会「食品ナノコロイドセミナー2015」協賛
- ・日本キッチン・キトサン学会「第 29 回キッチン・キトサンシンポジウム」協賛
- ・日本糖質学会「第 34 回日本糖質学会年会」共催
- ・公益財団法人ダノン健康栄養財団「第 17 回ダノン健康栄養フォーラム」後援
- ・(NPO 法人) 国際生命科学研究機構「第 7 回栄養とエイジング国際会議」後援

(8) 利益相反 (COI) 関連

現在ある「臨床研究の利益相反に関する指針 (改訂案)」を当学会に相応しい指針「栄養・食糧学研究の利益相反に関する指針」として、COI 状態の報告方法等の内容を継続検討している。

IV 総会、理事会、等の開催状況

(1) 社員総会

平成 26 年 5 月 30 日 (金) 10:00～10:50 札幌市教育文化会館 大ホール

(2) 理事会

平成 26 年 5 月 3 日 (土) 14:30～17:00 お茶の水女子大学
平成 26 年 5 月 29 日 (木) 15:00～17:00 北海道大学 百年記念館
平成 26 年 8 月 2 日 (土) 13:30～17:00 お茶の水女子大学
平成 26 年 10 月 18 日 (土) 13:30～17:00 お茶の水女子大学
平成 27 年 1 月 24 日 (土) 13:30～17:00 お茶の水女子大学
平成 27 年 3 月 21 日 (土) 13:30～16:30 お茶の水女子大学

(3) 臨時理事会

平成 26 年 5 月 30 日 (金) 11:00～11:20 札幌市教育文化会館 大ホール

(4) 業務執行理事打合せ

平成 26 年 6 月 14 日 (土) 14:00～16:00 お茶の水女子大学
平成 26 年 7 月 19 日 (土) 10:00～12:00 お茶の水女子大学
平成 26 年 10 月 11 日 (土) 13:30～16:00 お茶の水女子大学
平成 27 年 1 月 10 日 (土) 13:30～16:00 お茶の水女子大学
平成 27 年 3 月 7 日 (土) 14:30～17:00 お茶の水女子大学

- (5) 名誉会員・顧問懇談会
平成26年 4月14日(土) 10:30~12:30 東京大学山上会館
- (6) 名誉会員・終身会員推薦委員会
平成27年 1月10日(土) 13:50~14:10 お茶の水女子大学
- (7) 日本栄養・食糧学会あり方検討委員会
平成27年 3月 7日(土) 13:30~14:30 お茶の水女子大学

監査報告書

平成 27 年 4 月 20 日

公益社団法人日本栄養・食糧学会
会長 近藤 和雄 殿

公益社団法人日本栄養・食糧学会

監 事 青山 敏明 
監 事 濱田 正志 

監 査 報 告 書

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日迄の事業年度の理事の職務の執行に関し、本監査報告書を作成し、以下の通り報告いたします。

1、監査の方法及びその内容

私どもは、理事及び使用人等と意見の疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会等に出席し理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を受けました。

平成 27 年 4 月 20 日 16 時より学会事務所において、監査要領に基づき公益社団法人日本栄養・食糧学会平成 26 年度（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）における事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書、貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書、財産目録並びに収支計算書等について、関係書類とともにその内容を検討いたしました。

2、監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令および定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重要な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

独立監査人の監査報告書

平成27年4月13日

公益社団法人日本栄養・食糧学会
会長 近藤 和雄 殿

事務所名 公認会計士内川清雄事務所

公認会計士

内川清雄 

私は、公益社団法人日本栄養・食糧学会の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの平成26年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録、並びに収支計算書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。この財務諸表等の作成責任は理事者にあり、私の責任は独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。

私は我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することを含んでいる。私は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

監査の結果、私の意見は次のとおりである。

- (1) 財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、公益社団法人日本栄養・食糧学会の平成27年3月末日現在の財政状態並びに同事業年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日）の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。
- (2) 収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に従って、公益社団法人日本栄養・食糧学会の平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日）の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

公益社団法人日本栄養・食糧学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上